

2024年6月30日(日)

中国新聞 SELECT 掲載



## 遠慮ない助け合いの仲

JICA海外協力隊として中央アジアにあるキルギスの学校で英語を教える活動をしていました。2回目の派遣が決まるまで、1回

回目の派遣は、1回目よりももつと活動先に貢献するために成長しようとJICA中国などで社会人経験を積んだ。

そのかいがあつてか、2人ともとても良い関係を

事や、家での晩ごはんまで1人でやらずにすぐに助ける。あまりに「助け合い」は頻発した。「毎度ありがとう」と言つて、ありがたみが

仕事のちょっとした頼まれ事、家族とのコミュニケーションが円滑にできて、現地の

事、JICAの仲間たちとの懇親会など、多くの経験を積んだ。

そこで、JICAの仲間たちと一緒に、現地の文化や習慣を学ぶ機会を得た。

また、現地の人々との交流を通じて、自分自身の成長を感じることができた。

しかし、現地での生活には苦難もあった。特に、現地の言葉や文化に対する理解不足が、コミュニケーションの障壁となってしまった。

それでも、JICAの仲間たちのサポートと、現地の人々との交流を通じて、自分自身の成長を感じることができた。

この経験は、今後も自分自身の成長につながる重要な財産となるだろう。

「またすぐにキルギスに戻つてくるからね」。そう言って同僚たちと約束して、新型コロナウイルス禍のため任期途中でキルギスを離れて3年半がたつた。現地に残したもののが少なかつたという後悔が残つたま

まだつた。コロナの勢いが落ち着いた頃、もう一度派遣の道を選んだ。JICA海外協力隊として中央アジアにあるキルギスの学校で英語を教える活動をしていました。2回目の派遣が決まるまで、1回



# JICAだより



キルギス  
(2023年10月～24年4月)  
吉本真子さん(28)  
広島県北広島町出身

心の支えになってくれたホストファミリーと（2列目中央）

築くことがで  
きた。  
2回の派遣  
でキルギス人  
から学んだこ  
とは「ありが  
とう」を言い  
過ぎなこと  
だ。仕事や家  
族、どんな形  
の集団でも当  
たり前のように  
助け合う。

なくなる。言わなくたつて  
他の事で助けてくれたらいい  
んだよ」。ホストファミ  
リーからそう学んだ。  
助け合いの学びから得た  
ものは大きかった。家族だ  
けではなく、同僚、生徒、  
知り合いの知り合い、たま  
た乗ったタクシーの運転  
手まで、毎日何か助けを  
求められる。もちろん、全  
ては難しいので、助けても  
嫌な思いをしないものだけ  
に応えた。応えるとどこでも  
喜んでもらえた。その分、  
私も心置きなくたくさん  
頼つた。こういった遠慮の  
ない助け合いを行なが  
らも、相手との仲を深める  
ことができるんだと悟つた。